■(大炊御門)藤原経宗

公卿。妹が二条天皇の母となったことで、平氏から源氏の時代、朝廷に重用され続けた。

ふじわらのつねむね

藤原北家で摂政師実の子経実の子に生まれる。母は権大納言藤原公実女従三位公子(待賢門院の姉妹)。

.....1119=

.....1123= 4歳：叙爵。

藤原清衡没・1128= 9歳：昇殿。

鳥羽院政始・1129=10歳：

.....1131=12歳：右少将。父が死去、

以後、閑院門流の庇護を受けて育ったと思われる。

.....1137=18歳：

.....1138=19歳：左中将を経て、

.....1142=23歳：藏人頭に抜擢される。妹誂子は左大臣源有仁の養女として雅仁親王(のちの後白河天皇)に嫁し、
為義頼長臣従1143=24歳：守仁親王を生む。

.....1146=27歳：

.....1149=30歳：大納言以下に欠員生じて、参議となり、公卿に列する。

頼長内覧停止1155=36歳：*守仁親王が春宮になると、春宮権大夫を兼任、以後飛躍的に昇進、

保元の乱・1156=37歳：権中納言、ついで右衛門督を兼任。

藤原基衡没・1157=38歳：検非違使別当、

後白河院政始1158=39歳：*権大納言となる。守仁親王が父後白河天皇の譲りを受けて践祚し二条天皇となった。後白河院政の開始後、後白河院庁別当に補任されたが、二条天皇の外舅として天皇の信任を得、天皇の乳母子である藤原惟方とともに二条天皇親政派の中心となり、信西を中心とする院政派と対立。

平治の乱・1159=40歳：院近臣権中納言藤原信頼と通じて信西を除くことに成功し内裏に拠ったが、信頼の人物を見抜いて二条天皇を熊野詣から急ぎ帰京した平清盛の六波羅第に遷し、信頼・源義朝を追討(平治の乱)。乱後、経宗・惟方は、中心を失った院政派を圧倒し、「世ヲバ院ニシラセマイラシ、内ノ御沙汰ニテアルヘシ」(「愚管抄」)と放言するに至り、

.....1160=41歳：後白河院は命じられた平清盛に捕縛され、阿波国に配流されるが、

.....1162=43歳：召還され、平氏に接近したようで、

.....1164=45歳：本位に復し、右大臣に任ぜられる。

源頼政内昇殿1166=47歳：*左大将を兼任、平清盛の専横のもと、左大臣となり、以後長く続く。備中国を知行、

清盛太政大臣1167=48歳：

巖島神社・1168=49歳：皇太后(建春門院平滋子)権亮を兼任、

後白河院出家1169=50歳：院号宣下の際に建春門院庁別当となる。

平徳子入内・1171=52歳：以降没するまで土佐国を知行し、

.....1173=54歳：

.....1178=59歳：東宮(のちの安徳天皇)博を兼任。

治承のケテタ 1179=60歳：この頃の名国司は、平重盛の子で経宗の養子となった平宗実であった。

源氏一斉蜂起1180=61歳：

.....1182=63歳：

後鳥羽天皇・1183=64歳：平氏の西下後は、後白河院に接近したと見え、後白河院庁別当として所見する。左大臣の任にあること24年にも及び、「愚管抄」には「左大臣一ノ上ニテ多年職者ニモチキラレテゾ候ケル」と評されている。

平氏滅亡・1185=66歳：源頼朝が推挙した議奏公卿の中に経宗名は見えないが、後白河院は経宗をその中に加えており、「晩年は朝廷の長老として後白河院の信任も厚かったが、

奥州藤原滅亡1189=70歳：*出家、法然上人について受戒。居館の別館を一条室町に移し、西方寺を建立して、没した。和歌にも秀で、「干載集」「新勅撰集」などにその歌が収められている。